

2020 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 5

山本 真理（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は中級後半レベルの学習者を対象とし、総合的な日本語力を伸ばすことを目的としている。1週間に3コマ（1コマ90分）開講されている。授業目標は、1) 中級後半レベルの文章を読んで理解しそれに関連する内容について説明・意見を述べること、2) 他者の考えを知り理解を深めること、3) 話し言葉と書き言葉や長い文章を書けることである。授業では、読み物と自身の経験を関連付けて考え、クラスメートと意見交換をする。その活動を通して読みを深めていくことに重点が置かれている。主教材は『中級を学ぼう中級中期』（スリーエーネットワーク）で、教科書内の読み物は活動を支える素材として使用されている。2020年度春学期は、Zoomを使った同時双方型オンライン授業で実施された。各クラス2～3名であった。

2. 授業内容

主教材の全10課のうち、4課と6課をのぞいた8課分を使用している。12週での実施となった2020年度春学期も予定通り8課を扱い、課題提出は紙面からLMS（LUNA）に変更されたものの、量や内容は通常時とほぼ同程度であった。授業の進め方も対面と同様で、毎課、3コマ分を使い、1) トピックの導入・本文の内容確認、2) 話し合い（コメント交換、ディスカッション）、3) 表現・文法、という流れで実施した。2) の話し合い活動では、事前にコメントシート作成を課題とした。コメントシートには、読み物の内容に関して自分が考えたことなどを記載させた。さらに、話し合い活動とは別に作文も行なった。トピックは教科書のトピックに関連したもので、2020春学期はスケジュールの関係上2トピック、全4コマと通常のおよそ半分の時間での実施となった。

3. 成果と今後の課題

学生の評価は概ね良好であった。しかし、話し合い活動の円滑な進行や活性化の方法が課題となった。例えば、お互いの発言内容がよく理解できない場合、対面時であれば手元のシートを覗き込んでメモを読んだり、そうした振る舞いを見て相手が説明をし直すことがあった。それによって大きな理解トラブルがなく円滑に話し合いは進められていた。しかし、Zoom上ではそうした些細な振る舞いができないため、よく理解ができないままに話が進行してしまうようであった。解決策として、教師が発言中の学生のコメントシートを画面共有し、他のメンバーは必要に応じて視覚的に確認することができる

ようにしたり、活動開始前にお互いのコメントシートをチャットで送り合い、一通り目を通す時間を設けることとした。さらに、教師が Zoom の画面上に存在することで、学生同士の活発なやりとりのプレッシャーとなることも課題となった。これについては、話し合いが始まったら教師はカメラオフにするなど、視覚的なプレッシャーをなるべく与えないようにする対応をした。

今度、オンライン授業を行う場合は、オンラインであることを活かした更なる改善が求められる。例えば、課題を事前に LMS 上の掲示板に提出させ授業開始前に見ておくことや、掲示板上で事前にやりとりをしておき、授業ではさらに発展させたディスカッションを中心に行うこともできるだろう。